

相模原事件を考える (パート2)

前回「内なる偏見」といいました。「内なる偏見」とは、*inner bias* でしょう。

子供から「今度、結婚したい。相手は統合失調症だけだ。」といわれたら、いくら差別感を持っていない親でも結婚に反対するでしょう。また、子供が産まれたとき「あ、良かった五体満足で」とつぶやく親が殆んどです。これらのことを偏見とは思っていないでしょう。しかし、深い意味では偏見なのです。



精神科医
瀬戸 睿

心の悩みエトセトラ

第21話

国会議員の野田聖子さんの子は、重度の障がい児です。彼女は「私は子を愛しています。それを隠したくないから、息子が障がいを持っていても公表している。」といっている。

しかし、作家の曾野綾子氏は野田さんに対して「自分の息子がこんなに高額な医療を国民の負担において受けさせていて、一抹の申し訳なさとか、感謝の念が全くない」と批判しました。それにに対し野田さんは「障がい者の存在が無駄で国に負担をかける」と信じている人がいるが、障がい者は可哀そうな存在ではなく、将来なるかも知

れない自分を引き受けてくれる存在だ、くらいの気持ちになってくれたらな」と概嘆しました。

また、障がい者を隠すことに対しては「本人も家族も変な目で見られたくないとの思いでしょう。でも、私は何も隠す必要はないと思います。息子を誇りに思っているから。でも、本音をいえば、いつ襲われるかも知れないジャングルの中を歩いているような気分です。」と、今度の社会への不安を述べています。

今の社会は障がい者が生き辛い社会だと思えます。障がい者として見るのではなく、一人の人間と見ていきましよう。歩く場所をジャングルではなく、遊園地にしましよう。

医療法人社団 俊睿会

精神科・神経科・心療内科・デイケア
越谷市増森 252 URL <http://www.minamisaitama.com>



南埼玉病院

☎ 048-965-1151